IS(インフェニット・ストラトス)　勇者光臨

ガオガイガー最高！ジェネシック最高！！

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＩＳ（インフェニット・ストラトス）　勇者光臨

【Ｎコード】
Ｎ９４１０Ｙ

【作者名】
ガオガイガー最高！ジェネシック最高！！

【あらすじ】
君達に最新情報を公開しよう彼の名は獅子王　聖心彼は彼女とのデート中に彼女を助けるために死んだラストは口付けで彼の人生は終着駅に着いたが彼は神によって転生を果たす
そして我等が勇者　獅子王　凱を相棒に
ＩＳ世界に勇気を巻き起こす
そして彼は勇者王を操る勇者となる
ＩＳ（インフェニット・ストラトス）　勇者光臨
君もこの小説にファイナルフュージョン承認！！

俺と凱

ズズズッ・・・ゴ・・・クッ
適当に店で買った紅茶を飲みながら新聞を読む
・・・よし宝くじ1等当たった

『今さり気なく凄い事言ったよな？』
「そうか？あっ2等と3等も当たった」
『・・・牛丼食べて良いか？』
「宝くじから一気に牛丼かよ！？」

俺の名は獅子王　聖心
俺の名は親が本当は清らかな心で清心としたかったらしいが
間違えてこうなったらしい
因み牛丼の話をしたのは俺の相棒　獅子王　凱だ
つっても凱はＩＳのＡＩだがＧストーンの力を使って実体化が可能
何それ恐い・・・
因みに俺は前世の記憶がある
いわゆる転生者だ
はいはい皆様うわぁ～・・・有りがちとかお思いでしょう？
それは作者に文句言ってください
まあそれはさて置き俺はなんと彼女とのデート中に彼女が車に引か
れそうになったんで
俺が思いっきり突き飛ばして助けては良いんですけど
代わりに俺が死にました
で・・・最後に深くて熱いキスをして俺は息絶えました
ほんでお次は目を開けたら土下座してるじいさんがいました
俺はなんか死ぬはずじゃあなかったので俺はＩＳ世界に転生する事に
が俺を死なせて詫びとして特典もらいました

それは俺が生前彼女と共にハマっていた
『勇者王　ガオガイガー』を貰いました
でもねなんと！全ガオガイガーになれるという最高なものに！！
しかもサービスでＡＩとして獅子王　凱をつけてくれました
ついでに適正はＧＧＧ　ＳＳＳの上らしいです
でもＧがなんでＳより上なんだ？
良いんだよ！！Ｇが最高なんだよ！！！
え？身体能力は良いのかって？
大丈夫だよ俺リアルバグチート人間って言われてて
勇者って異名有ったから
最高じゃね！？異名！！？？
後獅子王って名字も前世からだぜ？
いや本気（マジ）で

「・・・あっ・・・・」

気づくと凱は紅生姜をてんこ盛りにのせた牛丼に更に唐辛子をかけていたが
蓋が外れてドパッて感じで出た

「・・・いける？」
「・・・見せてやるさ・・・勇気を・・・」
「確かに勇気要りそう・・・」

そう言って一気に牛丼を食べる

「・・・ど、どう？・・・」
「・・・う、美味い！！！」
「マジですか！？凱機動隊長！？」
「ああ！！こんな事ならゆっくり食べれば良かった・・・」

「お代わり準備しとくよ」
「おお！有難う！！」

クラスメイトに男子一人

どうも獅子王　聖心です
俺は今ＩＳ学園に居ます
クラス中の女子から視線を集めている状況です

『精神的に辛くないか？』

問題ない彼女の泣き顔に比べたらどうって事ない

『泣き顔に弱かったんだな』

ああこの世が終わるみたいな顔するからさ
なんかそんな顔見たくなかったんだ・・・

「し・・・獅子王君！」
『心呼んでるぞ』
「あっはい（サンキュ凱）」

俺の目の前には明らかに童顔な先生が居た
・・・女性としての部位が異常だな
興味ないけど

「あ、あの獅子王君の挨拶の番なので・・・そのぉ・・・」

もじもじしながら小声で俺に話す先生

「解りました
俺の名前は獅子王　聖心

年は１８歳
ＩＳが動かせると解って転入させられた者だ
趣味はお菓子作りに読書、音楽演奏主にやるのはオカリナとチェロだ」
「え！？年上！」
「お兄様ぁぁ～！！」
「私のために愛の曲を奏でて～！！」

俺の周りの女子に騒がれた

『凄いなこれは』
「（凱はなかったのか？）」
『ああ俺にはなかった』

そしてＳＨＲは終わり休み時間無しで１時間目が始まり
授業は終わった
俺が椅子に腰かけているとある奴が近づいてくる

「あの獅子王先輩？」
「君は確か・・・織班君だったかな・・・？」
「あ、そうです先輩は今までは何処の高校に行ったんですか？」
「（凱何処だったけ？）」
『藍越学園だろ？』
「（ああサンキュ）藍越学園だ」
「え！？マジですか！？俺もそこに受験しようと思ったんですけど受験場所を間違えてＩＳ触っちゃってここに居るって事です」
「ああなるほどＩＳと藍越って似てるからね」
「そうですよね後俺の事は一夏でいいっす」
「俺の事は聖心でいい」
「はい聖心先輩」

「ちょっといいか？」

すると一人の女子が話しかけてきた

「箒？」

「話がある」

「あ、ああじゃあちょっと行ってきます聖心先輩」

「ああ、いってこい」

一夏は彼女に連れられ教室を出て行った

そして二人は授業が始まる前に戻ってきた

そして授業がスタートした

が2時間目が終了し俺が一夏と話していると・・・

「ちょっとよろしくて？」

髪がロールヘアーの女の子が話しかけてきた

「え？」

「ん？」

「まあ！なんですの！そのお返事は？

私に話しかけられるだけでも光栄なのですからそれ相応の態度というものがあるのではないかしら？」

「イギリスの代表候補生セシリア・オルコット」

「あらそちらの方は知っているのですね？」

「まあなイギリスの代表校候補生だろう」

「質問いい？」

「下々の質問に答えるのも貴族の役目ですわ」

「嫌俺は先輩に聞いたんだけど・・・代表候補生って何ですか？」

俺は解っていたが軽く呆れた
セシリアは軽く怒った

「あなた本気で仰ってるますの！？」
「おう知らね先輩お願いします」
「はいはい簡単に言えばＩＳの国家代表生の候補生さ
まあ傍から見ればエリートだな」
「へぇ～」
「そうですわ！エリートですわ！貴方方とは違う入試試験で
唯一教官を倒したエリートなのです！！」
「俺も倒したぞ教官」
「同じく」
「え！？」

セシリアは声を上げた

「私だけと聞きましたが？」
「女子だけで事だろ？」
「男子は別だって事だろ？」

ピシッ
セシリアの額に何かが走った
その時チャイムが鳴った

「くっ！覚えてらっしゃい！！」

セシリアは自分の席に戻っていた

「一夏も席に戻れ」
「はい先輩」

一夏は自分の席に戻った

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9410y/

IS(インフェニット・ストラトス)　勇者光臨

2011年11月28日03時48分発行